

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 大里東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

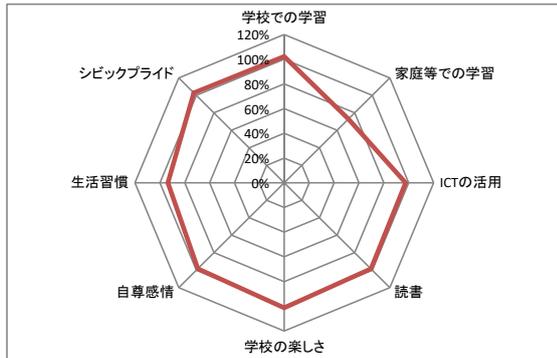
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○無回答率が低く、記述問題にも取り組むことができていた。 ●漢字の書き取りにおいて「意外」はよく書けていたが、「期間」は書けない児童が多いなど、漢字によって得手不得手がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	目的に応じて記述する問題	
	努力が必要な問題	情報の扱い方に関する事項（原因と結果など情報と情報との関係についての理解を問う）の問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	●問題形式（選択・記述）を問わず全国平均に比べ正答率が同程度に低い傾向にある。 ●算数の得意な児童と苦手な児童の学力の差が広がってきている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	50×40や、(151+49)×3などの基本的な計算問題	
	努力が必要な問題	図形（台形の定義、三角形の面積）に関する問題・割合に関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「友達関係に満足しているか」との問いに対して約90%の児童が肯定的に回答しており、学校生活を楽しく送れている児童の割合が多い。</li> <li>・「読書は好きですか」の問いに対して肯定的に回答した児童の割合が、前年度に比べて増加した。本を意欲的に読む児童が増えてきている。</li> <li>・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」と回答した割合が低かった。今後は、宿題や自主学習などを通して家庭学習を推進していく。</li> </ul>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ グラフやメモなどの情報を整理し、分かったことを記述する「書くこと」の取組
- ・ 個に応じた補充学習や少人数授業による学力補充の充実

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 家庭学習を計画的に進めるための「家庭学習ウィーク」の設定